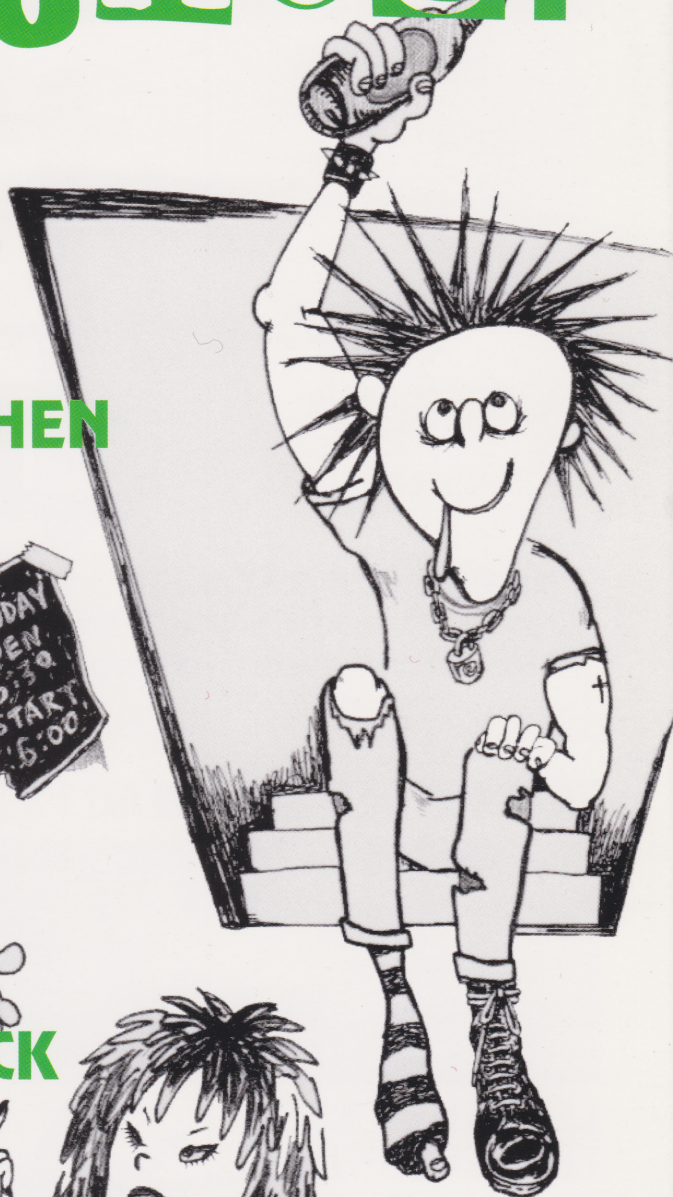
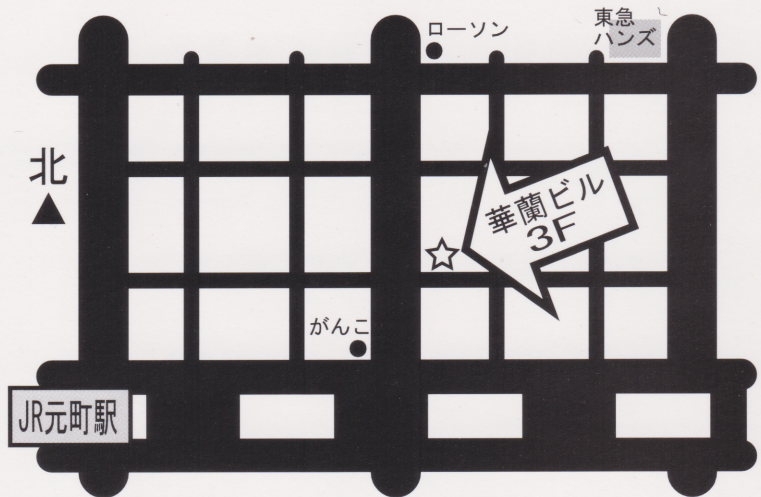
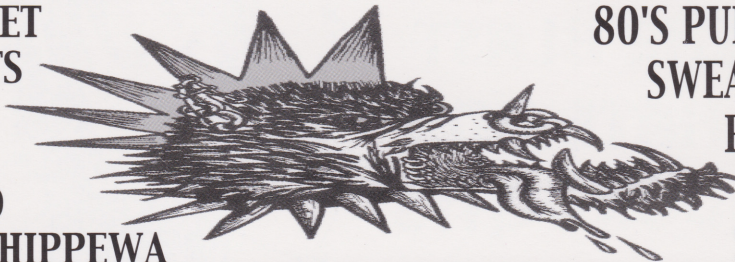
PUNK ROCK zine from WESTERN JAPAN
SHOT & SHOUT
CRIKEY CREW
ANGER FLARES
CLASH DOGS
HARDCORE KITCHEN
TODAY OPEN 5:30 START 6:00
EXPLOSION SACK
THE BLAST
HATE NO.3
DOROCHYS
沈黙爆撃機
THE FUTURES
THE INDEX
OLHO SACO'S "BACK TO 80'S"
税抜価格
¥300
ポッキリ

HARDCORE KITCHEN

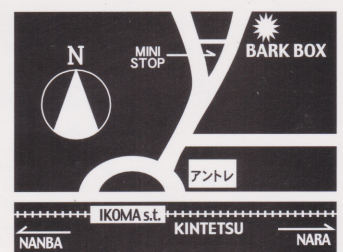
PUNK
HARDCORE
FAST CRUST
SKA 80'S Oi
GARAGE MODS
ALTERNATIVE
POP JAP INDIE
NEW WAVE
MELO CORE
PSYCHOBILLY
ROCKABILLY
…etc

TEL/FAX 078-332-6266
E-mail…hxcxk@pf.highway.ne.jp
Web…http://www1.neweb.ne.jp/wb/hxcxk/

中古買取
強化中!

THE SHOP SUPPORT FOR ALL PUNKS & SKINS & BIKERS & ROCKERS

LEATHER JACKET
LEATHER PANTS
Dr.MARTIN
GETTA GRIP
RUBBER SOLED
RED WING & CHIPPEWA

80'S PUNK T-SHIRT
SWEAT & PARKA
FRED PERRY
LONSDALE
STUDS BELT

BARK BOX ORIGINAL WEAR

OPEN/11：00～20：30　CLOSED/Tuesday
ホームページからの通販も可能です。http://www3.kcn.ne.jp/~bark-box/
お問い合わせは、bark-box@m3.kcn.ne.jp又は0743-75-7458まで。
￥300切手同封の上、下記の住所までお送りください。カタログ送ります。
〒630-0244, 2-8, Higashi-Matsugaoka, Ikoma, Nara, Japan [BARK BOX]

CRIKEY CREW

岡山のSKINHEADSバンド・CRIKEY CREW（クリッキークルー）は、1990年に結成され、以降、現在まで精力的なライブ活動を行っており、中国地方以西のPUNK/HARDCOREシーンを代表する存在となった。2000年にメンバーチェンジがあり、exIDOL PUNCHのTAR-TANが加入、それまでの４人編成から５人編成となり、音的にも大幅に変化する時期を迎えた。

2001年2月10日、大阪十三FANDANGO『BOOTS PARTY 2001 Vol.1』にて、彼らへのインタビューを行なった。これまで彼らのインタビューとしては、1995年１月に行なわれた『プレ日本選手権 Vol.5』の時に入場者に配布したミニコミ掲載のものがあるだけだったので、この時点では貴重なのでは?(ラジカセを貸してくれたEXPLOSION SACKのMasall君、有難う）…などと書いている内に時間は流れ、６月に彼ら自身のsniffer recordsより、アルバム『MY SONS』がリリースされた。DOLLにもインタビューが載ってましたね～…。

<まず午後６時半頃、楽屋にてヒロキ氏とタツオ氏に聞いてみた>
—アルバムの出来はどうですか?
H「もうバッチシ!」
—今(2/10)はどういう段階ですか?
H「予定では３月一杯でMIXダウンが終わる」
—(録音が)長い事かかった理由と云うのは?
H「(わざと低い声で)最高のクォリティーを…(爆笑)」
—一度、録音したBack Truckを全部ボツにしたのは何故?
「Drumのライドとかスネア、キックの音が全部気に入らんかったから」
—今回はもう…
「バッチリ!もうかなりエエよなぁ」
T「うん、もうかなり」
K「でもな、今まで出したEPとかオムニバスとかと同じ雰囲気で聴くんなら違うよな」
—レコーディングのメンバーは…
H「Bassは、新しい曲はTAR-TANで、前からの曲に関してはKENSUKE」
—新しい曲と云うと…
H「“Tomorrow”と…あとは憶えてない。TAR-TANが入って、音にまとまりが出た来たなぁ。でも別にKENSUKEがダメって訳ではなくて…」
T「ずっとやって来た４人の中にオレがGuitarで入った、って時期やったし、５人でやって来て、もう一年経ったから、って云うのもあるし」
H「TAR-TANの音もライブを重ねる毎に音が段々とタイトになって来て、ステージングと音がマッチングし始めたし」
—Guitarが二人になったと言うのは…
H「昔からGuitar２本でやりたい所があったけど、音楽自体がまだそういう所まで行き届いていなかったと云うのがあって、今回レコーディングにあたって、今までの音とかも全部アレンジし直して、(Guitar)２本でやる事を前提に録音したし、２本の音を相対的に重ね合わせられる所も出て来て、重ね合わせなければ出ない音色も出て来たし」
T「段々それが馴染んで来た。で、曲作りに関してはその分、シビアになってきたなぁ、少し変えたら全部の印象が変わってくるし」
—新しいメンバーを紹介して下さい。
T「あ、TATSUOです。今までは(CRIKEY CREWに)乗っかってただけの部分があったけど、今はもう慣れて、CRIKEY CREWの一員です。で、４人に混じってやり始めて“Tomorrow”はオレにとっても特別な曲で、力が入ってるし、一番聴き易い曲でもある。今までの曲をアレンジでオレが入ってとるんやなくて、最初から参加しとるって云う意味で」
H「とりあえず、アルバムに関しては、最初から最後までが一つのストーリー性のある物にしたいと言うのがあった」
発売は?
H「６月３日です。発売元とかはこれから煮詰めて行く、という事で、とにかく発売日は６月３日。(この時点では未決定でした) とにかく聴いたら分かると思うよなぁ、今までと違う何かが発見出来るって云うのが。特に関東なんか全然行ってないし、余計そう思うんじゃないかなぁ。『Youth/Mr.k』のシングルとか“Motor Psycho”とか“New Glory”は近い物があるけど、全編的に昔のように速くて激しくて、と云うのではなく、Groove感とストレートさって云うのを全面に出してるから」
—他の地方にはあまり伝わっていないようですが、最近の活動の状況は…?
H「結構、のんびりと…でもやる時は結構つめて(ライブを)やってたし。で、今年はCDも出るからレコ発のイベントやtourも考えてるし、今までの10年よりはもっと中身が濃い、一回一回をより一層大切にしたもの、見に来る人も楽しめて、やる側も楽しめるっていうcommunicationがしっかりと取れるような」
T「でも今までと違う、って言うか、違わんのじゃけどな、オレが見とったCRIKEY CREWとは」
H「まぁでも実際、歌も前までみたいに低音で押すのではなく、歌い込むようになって来たし、ウータンのGuitarも一つ一つのフレーズを大切にする

ようになったし」
T「アレンジは昔から大切にしとるけど、今はGuitar二本になったし、二本でしか出来ない事を模索して、今の時点での最高のものを出して行っとるけぇ。これからもよりエエもんを出して行きたい」
H「逆に前よりも、服の事とか髪型とかへのこだわりが薄れて行って、その分、音へのこだわりが強うなって来よる。基本的に人間の奥底にあるものはずっと変わらず、バンドポリシーも変わらず、でもFASHIONだけで何かをやる、形だけに捕われて何かをやるって云うのは無くしたいなぁ。もっと皮ジャン着てPUNKが好きな子も、普通のROCKが好きなコもみんな聴いてくれればええな」
—日本のバントで気になるバンドは?
H「こないだ鐵鎚と桜花のCD聴いたけど、本気で一直線に進んでるバンドってやっぱりカッコいいと思う。浅くカッコだけで何かをやりおるんじゃなくて。興味の有るとか無いとか言うより、心の奥底にあるものにエエものを感じられるし、そういう人間がやりおる音楽は嘘がない分、エエと思う。最近のNew York系のバンドでも、本気でやってるバンドは見てもカッコいいし影響受けるし。逆にいくら上手くて人気があっても、中身がないのは聴いてもエエと思わんし、一緒にやっても影響受けるものはまるっきりない」
T「BALZACなんかでも、売れたからと云って、流行りのFASHIONや音楽性に変わる訳でもなく、ずっと最初から貫いてるモノは変わらんし、すげぇと思う」
H「うん、そういう部分で(BALZACは)最近売れとるヘンなバンドなんかとは全然違うな。それにしても、ええバンドは増えてるよなぁ、最近とくに。…LOVE PSYCHEDELICOとか(笑)」
T「うん、すぐCD買いに行った(笑)」
H「あとはアレじゃな『北欧系GRINDメロディックMETAL』(爆笑)。もうこれだな!通称ゴシックMETAL」
T「(笑)うん、…でもアイツら宗教じみとるからその部分はちょっと…」
H「でも今までMETALとかは全然ハマらんかったけど、あの辺にはメチャメチャはまっとる」
T「北欧ってずうっと昔からMETAL系では優秀な地域だったよな」
H「北欧系のメロディックさの中にGERMANの攻撃性を交えたら、もう最高の音楽になるよな(笑)。ワイの中では音楽的には一番エエと思う」
—じゃあそろそろシメって事で、これからの展開・あと“ココを見て欲しい”とか言うのをお願いします。
T「うーん、細く長く」
H「皆に見て欲しい所…“ひたむきさ”“一所懸命さ”(笑)まるで『たま』のように(爆笑)」
T「音で聴いて欲しいのは、工夫してる所…Guitar二本のカラミとか」
H「あと、ワイの太った腹とか(爆笑)」
—最後に、永年Bassを弾いていたKENSUKE君が辞めた理由ってのは…
H「家業を継ぐために、頻繁に中国へ行ったりしないといけなくなって、どうしてもバンドが続けられなくなったからです」

<そしてライブ終了後、打ち上げ会場の『道場』でウータンに話を聞いた>
—アルバムのどういう所を聴いて欲しいですか?
U「特にどういう所って云うのは別にないです。全体的に聴いて欲しいですね、完成度は結構高いと思うので」
—Guitarが二本になった部分について何か…
U「アルバムに関しては、元々Guitar一本でやってた曲を二本でやっているので、まぁこれからの展開ですかね、二本になっての楽しみは」
—ウータンにとってのCRIKEY CREWって、どんな感じ?ウータンってオリジナルメンバーやんね?
U「うん、僕とヒロキ君がオリジナルメンバーで。もう、あって当たり前のもんって感じですね」
—OK！その言葉さえ引き出せたから良いっすよ!
U「まぁ短いですがこんな感じで（笑）宜しくお願いします。これからも頑張りますんで。今、新曲作ってますから期待しとって下さい」

<さらに打ち上げ終了後、『道場』前の路上にてTAR-TAN(以下タ)に聞いた>
—アルバムはどうですか?
タ「僕は『TOMORROW』一曲しか参加してないんですけど」
—今までやっていたバンドとの違いって云うのは
タ「僕って自分のやりたい音楽って云う物に、こだわりがないと言えばないんですよ。PUNKって言う音楽の中で好きなバンドも有れば、アイリッシュ系の中で好きなバンドあるって感じで。そのジャンル毎に好きなバンドっておるじゃないですか。そんな感覚で音楽を聴いとった分、あんまり音楽性にこだわりがないと言えばなくて。IDOL PUNCHからCRIKEY CREWって言うのも結局、友達の延長で。『(活動が)止まってるから弾いてや』って言われて『あぁ、いいですよ』みたいな感じでしたね」
—逆に、だからこそのびのび出来るってのはあるよね?
タ「あぁ、それは非常にありますね。やっぱり人間関係の成り立った上でのバンドでないとやって行けない部分はありますね」
—今日のライブは楽しめましたか?
タ「ハイ、楽しめましたけど、結構（Bassの)ミスタッチを自分の中で反省会を開いてしまうタイプなんで、今日は今日で反省すべき点は多かったですね。バンドって何人かでやってる訳じゃないですか。だから一ケ所でもミスタッチがあると、足を引っ張ってるような気になってしまいますね…すいません、大した事言えなくて(笑)」
—いえいえ、これだけ答えて頂けたら十分ですよ。

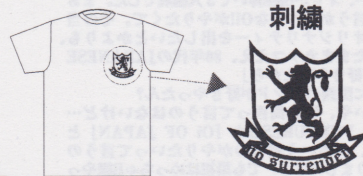
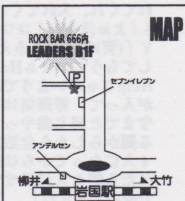
<そして泥酔した(あはは)ガッチ…>
G「(今日のライブについて)オレは納得は行ってネェよ!!!」
—録音の録り直しについてはどう思われましたか?
G「う〜ん…レコーディングははっきり言って面倒臭いですね。で、レコーディングが全てエエ形であるかどうかって言うのはクエスチョンマークがつきますね。でも、待っとる人がおるから…それが一番!」
—有難うございました！

大阪のPUNKシーンでも、屈指のライブバンドとして精力的に活動しているCLASHDOGS。BRONZE FIST設立と同じ(笑)'95年に結成された彼ら。結成当初は、'80'S UK PUNK/HARDCOREと、80'S関西Oi/BEAT系の影響がバランス良く融合したサウンドであったが、メンバーチェンジなどを経て、現在はCLASH DOGS独自のオリジナリティーを確立している。

メンバーはRYUICHI(G&Vo)、TAKUYA(Ba)、そしてお疲れモードだったKENICHI(Dr)の3人。年末に、SHOT&SHOUTより、神戸のANGER FLARESとのSplit CDをリリースする事がインタビュー後に決定した。4月某日、LMスタジオで3人に話を聞いた。

CLASH DOGS

—まず、最近の活動の状況は?
RYUICHI(以下R)「ライブは月一くらいやね、たまに呼ばれて単発でどっか行くくらい」
—去年の6月に2ndの『EQUALITY』出してから、どうですか?反応とか。
R「作品としては音的にも結構、納得行った仕上がりかな?まぁレコーディングとか分かってきたしなぁ、次はもっと良いモノが出来ると思う」
TAKUYA(以下T)「とりあえず新曲を作らないと」
KENICHI(以下T)「ホンマやわ、出されへんもん」
R「“EQUALITY”以降に二曲しかない(笑)…“FUCKIN' MUSHROOM”と、あと名前がない曲(笑)」
—アルバムを出したいんやったら曲を増やさないと…
R「うん、年内には準備万端に。五曲くらいは」
K「ホンマ、ガツンとやらな。STUDIOにこもろうや、マジで」
R「いや、こもったってアカンやろ」
K「何で?こもらんとアカンやん」
T「まぁボクらは曲が浮かんでから完成するまでが遅いですね。レコーディング直前とか切羽詰まったら…」
R「KENICHIがやる気ないからなぁ」
K「テメエもやん!」
—ははは(爆笑)
T「(RYUICHIに対して)公の場で『やる気ない』とか言うんじゃないって(笑)」
—最近、練習はどんくらいやってんの?
R「最近は仕事の関係で出張があったりで、週一はちょっと難しいかな?」
—そうか、今後の予定は?
R「今後の目標はフルアルバム」
—昔の曲を練り直して入れたりしないん?
K「いや、練り直すくらいなら新しいのを作って出すよなぁ?」
R「うん、昔の曲はやりたくないね」
—それは自分が作った曲でも?
R「うん、やっぱりVocalラインとかはKUNIHIRO(前のVocal)に合わせたりしてたし…て言うか飽きたな!、もう。オレら曲作るのが遅いから」
T「まぁな」
—1stの曲とかはもう演らないん?
R「たまぁーに、久々に“A WALKIN' ROUTE”やるくらいかな?」
—最近、周りで気になるバンドっている?
R「周りで?うーん、VIBRATIONSやね。一緒にツアーを回りたいと思ってる。オレら2バンドの合同企画をFANDANGOで何ヶ月かに一回やろうって言ってる」
CLASH DOGSだけの企画は?
R「オレらの企画は、地方のバンドに『ツアー回

るから一緒にやって』って言われた時くらいかなぁ?あとレコ発とかそんな絡みがないと企画せえへんし」
—タイトルは?
R「“GO FORWARD”。またアルバム出したら企画のタイトルも変わってくるかも知れんけど」
—…そうか…。
R「高崎君、もっと何か聞いてやー!」
—いやぁ、ずっと前のDOLLでたいがい聞いたしなぁ。
R「最近オレが好きなバンドはねぇ…」
—(爆笑)…何?言うて言うて!
R「いやぁ、やっぱり音楽聞かんからなぁー」
—なんじゃ、そら!(笑)他の二人は?
T「オレはSKA。DETERMINATIONSとか」
R「オレはGENERATION Xが全て。一番好きやなぁ」
—KENICHI君は?
K「CLASH」
—CLASH、今聞いてるん?
K「聞いてない(爆笑)」
T「何じゃ、そら!」
R「これから、オレの考えとしてはVIBRATIONSとの合同企画を続けてビッグネームを呼びたいね、普段一緒にやる機会がないバンドを。まずその前に企画を定着させなアカンけど」
K「これからはライブを一本一本絞っていきたいですね」
—最後に今後の方向性を一人一人…。
R「オレは有名になりたい!何でこんなしょうもないバンドが売れてるんやろ?って言うのが多いから、世間にオレらの存在を思い知らせたろやないか!?っていう。立ち上がる時じゃねえのか、オイ!?」
T「ここで『オー!』とか言わなアカンのか?」
—(笑)KENICHI君、今の発言どうですか?同意しますか?
K「え?…同意します。て言うか…まぁ、ええわ」
T「何やねん、それ!」
K「何て言ったらエエかわからんわ」
R「まぁこう見えてもオレら、適当やからなぁ」
—それが永くやる秘訣でもある?
T「あぁ、確かにそうかも知れませんね」
R「所詮、口先だけかも知れんけど。口先バンド(笑)」
—そんな事ないで、行動伴ってるやん。

神戸のANGER FLARESは、80年代から受け継がれる正統派JAPANESE Oi!サウンドを、最もクォリティーの高い形で継承し、見る者を熱くさせる。メンバーはVocal/YUICHI, Guitar/SYOGO, Bass/PILO, Drums/PON-CHANGの４人。4/7(土)の深夜、阪神尼崎駅前のスタジオ・BASS ON TOPでの練習終了後、ビールを飲みながら、インタビューは始まった。YUICHI君、ラジカセくれて有難う!

年末に、SHOT&SHOUTより、大阪のCLASH DOGSとのSplit CDをリリースする事がインタビュー後に決定した。

—とりあえずは今のメンバーに至るまでのいきさつを。

Y「'99年の３月に結成しました。最初は、前のGuitarのHIDEと、あとHelpの人に叩いてもらってて。で、6月に幼馴染みのPON-CHANG(Drum)が入って。あの時、ドラムのドの字も知らんかったよなぁ、だからもう8ビートから練習して。曲なんかもヤバカッタよなぁ(笑)」

PO「(笑)うん、ヤバかったよなぁ」

Y「最初の時なんかリズム隊だけで週2回くらい、合計週４回くらいSTUDIO入ってたやんなぁ…で、８月に初ライブをして、10月に1st Demo Tapeを出して」

—最初はトリオ編成やったやんね?

「はい、オレがBass弾いて３人編成でした。まぁ何と言うか、ベタなOi!がやりたくて。その当時はオリジナリティーを出したいとかよりも、聴いたままカッコええ、80年代のJAPANESE Oi!が好きやったから」

—特に関西のバンドが好きやったん?

H「いや、特に関西って言うのはないけど…BAD VULTURESとか『Oi OF JAPAN』とかの、ああいう感じのがやりたいって言うのはありましたけど。でも最初はめっちゃB級やったな(笑)いや、C級か(笑)。で、PILO君(Bass)が入ったのが６月、THE UNSEEN(USA)のJAPAN tourのサポートの時からで、それ以来４人編成です。で、10月に1stアルバムをEBISUから出して、10〜11月にかけて、レコ発のtourを単発で回って」

—EBISUから出したキッカケって言うのは?

Y「'99年10月に出したDemo Tapeを伊藤君に送ったら、ライブもたまに見に来てくれたり、気に入ってもうて、出さへんかっていう話になって。やっぱりEBISUってOi!にハマるきっかけになった『BURST OUT』も出してたレーベルで、好きやったから。PILO君が入って二週間後にレコーディングやったっけなぁ(笑)。で、11月のレコ発tourが終わってからGuitarのHIDEが一身上の都合で(笑)脱退して、どないしよかって言ってる時にコイツ(SYOGO)が『入れてくれ、入れてくれ』って(爆笑)」

S「よぉ言うわ！コワいわ！」

Y「(笑)で、とりあえずHelpでSYOGOに加入してもうて。まぁHelpのようでHelpじゃない、HelpじゃないようでHelp?(笑)…でもSYOGOが入って、雰囲気はゴロっと変わったなぁ、今までと同じ曲やっとっても全然こうやってる側からしたら全然違う…イイ意味で。この４人になってからは曲作りに関しても前に比べたら個々人に任せてるし…まぁマイペースでやってますね」

—Vocalスタイルはやっぱり、好きなバンドの影響で…。

Y「うん、SIDE BURNSとかRIPとか、やっぱりダミ声のバンドが好きやって言うのがあって、近付けたいって言うのはあった。でもこういう声作るのに、時間はかかりましたね」

—マイペースって言う割に、結構単発やけどアチコチ行ってるよねぇ?

Y「うん、ただ単に地方でやりたい、楽しい!って言う、単にそれだけの考えで、別に何の狙いもなく。その土地のバンドと対バンしたりするのが面白いし。ただ、その中でも、何処の場所でも同じ(クォリティーの)気合いの入ったライブって云うのを意識して。地元でずっとやってて、どうしてもナァナァになってくるのが嫌やったから、ちょっと地方出て行こうかって云うのもあったし」

—PUNKに対する個々人のこだわりって言う物について話して欲しいんやけど…。

Y「そもそも、最初はTHE BLUE HEARTSを小六の時に聴いて、衝撃やった。そこからめんたい(BEATのバンド)のROOSTERSとかARBとか聴いたりして、一通り聴いて来たけど、行き着いたのがPUNKで。…で、オレの中でOi=PUNKなんですよ、思想のあるSKIN-HEADSとかは別にしても」

PI「オレ最初は THE BLOOD & GUTS 聴いて、何か、凄い『こんなんやりたいな』って思ったのがキッカケ。中学の連れのいとこの兄ちゃんがメンバーやって」

—あ、赤いソノシートは最近手に入れた、¥1700で。

S「黄色のんがシブいねんな!」

Y「あと、もっと身近でPUNKにドップリはまるキッカケは、オレら神戸やしJIMMY GUNS!!もうホンマ、影響受けてますよ。初めてライブ見に行ったんもJIMMY GUNS、昔のチキンジョージで。あの当時に(JIMMY GUNSを)見て無かったら今(バンドを)やってへんかも知れへんし」

—ライブは良く行ってたん?

Y「割と行ってましたねぇ」

S「(YUICHIに向かって)何処行ってもおったもんなぁ、ホンマ」

Y「イヤ、あんたもおったがな!」

S「あの当時15〜6才で、オレら一番年下の世代やったなぁ」

Y「うん、で、その時に(JIMMY GUNSの)対バン出てたのが(PILOに向かって)この人、GANG HEADSで!」

—やっぱりPILO君はバンド歴が長いから、(活動について)適切なアドバイスは…

Y「ない!全くないなぁ(爆笑)…今のメンバーになってからはバンド的に、バランスは取れてると思うなぁ、前は曲も完全な形で持って来てたけど、今は個々人に任せられるし」

—うんうん、話は変わるけど、SYOGO君がJOHN HOLMEZを抜けた原因って言うのは…。

S「LIVEとかが商業的になり過ぎて、楽しめなくなってたから…」

Y「…喋れや、もっと(笑)!」

S「…PUNKのない生活って考えられへんな…、でも何がPUNKで何が違うかって言うのは言いにくいけど」

Y「PUNKは元々不良やからな、『青二才』とか言う意味やし。…ホンマ、15〜6才の時の反逆精神とかは消えてないし」

PI「続けて行くのがPUNKやって考え方もあったりするけど、オレは生きざまって言うほどのモノでもないかも知れんなぁ」

Y「え〜!?そんな事ないわー」

PI「音的に『PUNK』って言うジャンル分けが確立されてる部分もあるし」

S「結局、永遠のテーマなんかも知れんなぁ、まぁヤリたいようにやるのがPUNKやろ?もうそうしとこうや!」

—(PON-CHANGに向かって)どうですか…(笑)

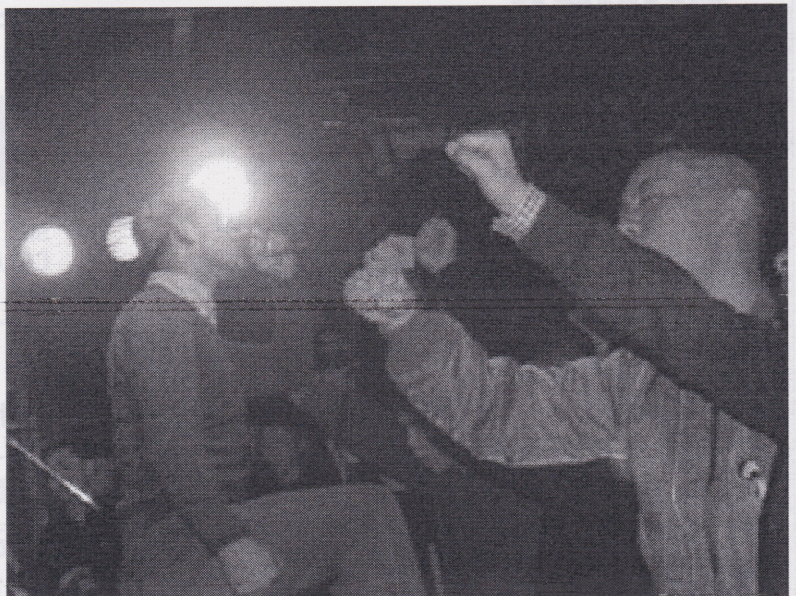
PO「うーん、わからへん…」

Y「お菓子食いたいんやろ?今(爆笑)」

PO「(笑)…今(バンドで)やってる事がPUNKや、とは思う」

Y「…日常生活の中で、仕事してる最中に『オレはPUNKや』とは思わへんしなぁ」

—まぁ『PUNKとは何か』って言う質問自体抽象的やからなぁ。

Y「でも『自分がPUNKや!』言うのは思ってんねんなぁ、おかしな事に(爆笑)」

S「いや、おかしくないやん(笑)」
Y「…まぁ永遠の課題と言う事で…次の質問を(笑)」
—あと、YUICHI君以外のメンバーの好きなバンドとかは?
S「元々はJAP(ハードコア)聴いてて。ジャンルにこだわらず良いもんは良いと認められるように最近、なった」
Y「(いきなり)あ、分かった!PUNKとは『生きたいように生きると言う願望』、これや!」
S「(爆笑)何で話が戻るねん!?」
—(笑)…PON-CHANGはどう?
Y「(PON-CHANGに向かって)まぁこの人からは何も出て来んでー(笑)浜崎あゆみやろ?(爆笑)」
PO「(笑)でもYUICHIからもうたSIDE BURNSのん良う聴いてるで」
Y「でも浜崎あゆみかSIDE BURNSか言うたら、お前は浜崎あゆみやろ?」
PO「当たり前やん(爆笑)…あぁ、書かんとって下さい!」
Y「いや、書かなアカンて! 己をさらけ出さな…でも叩かれるやろな〜(笑)」
PO「あと、壬生狼は好きですね。一緒にやったバンドではCLASH DOGSとか、THE HAWKSとかカッコええと思った」
PI「影響受けたのは…もうCLASHから始まって数え切れんくらいあるけど、一緒にやってカッコええと思ったのは最近やったらSMILEとか、割と日本語を大事にしてるバンドが好き。でもYUICHIに誘われた時『あんなんエエな、こんなんエエなぁ』って盛り上がってんな!それまではもうバンドはやらへんかなぁって思ったけど、やってみてもエエかなって思った。で、実際やっぱりバンドやっとかなアカンなってなった」
—締めとして、今後やって行きたい事は…。
S「まぁオレは関係ないから、Helpやし」
Y「Helpちやうねんから。『正式加入』って書いて下さい、でっかく(笑)」
S「まぁ他のバンドに負けたくないとかじゃなくて『楽しく』やりたいな」
Y「いや、ホンマそうやで。音楽と言う物を楽しんでるから」
S「おっさんらがBEATLESやるみたいにな」
—音源の予定は?
Y「今年中に何かの形で音源は出したいですね、全く予定ないですけど」
—じゃあPON-CHANG、恒例と言う事で最後に一言!
PO「えー!?…まぁホンマにコイツ(YUICHI)の影響がすごい大きいですね。出会ってなかったらバンドもやってへんかったし、インディーズのジャンルも聴いてなかったし」
PI「…最後は『ダーッ』で締めようか(笑)」
Y「…寒い終わり方や(爆笑)」

沈黙爆撃機

CHINMOKU BAKUGEKIKI

大阪は難波のBEARSや神戸を中心に活動する沈黙爆撃機。'91年頃より活動している彼らだが、2000年秋にやっと初音源『無用の用』をリリースした。ここ何年かは、ライブ活動はかなり活発に行っており、今後が楽しみである。メンバーはナカイヨウスケ(Ba)、ハシモトノゾム(Vo)、ソトマコウジ(Dr)、タナカマサル(G)。アンケート形式で答えてもらった。

—結成当初はどんな感じの音だったのですか?
「当初はDAMNED, RAMONES, BLITZ等のPOPでOi風な曲が多々あったような…。今の方が断然、狂暴、狂暴。まぁメンバーチェンジが何回かあったし、その度毎に新しいバンドという認識でいたので、前がこうで今がこうだと云う具体的な言葉はあまりない」
—現在の音は、どのようなBANDに影響されていますか?
「80'S, 90'SのJAP PUNK/HARDCORE全般！及びMINOR THREAT, DEAD KENNEDYS等の80'S US PUNK/HARDCORE。実際、鉄アレイ・FORWARDと共演した時はかなり感動したし、やっぱりすごかった。でも自分達としては、○○風と言う形態には捕われず、バクレツ出来る音を目指してます」
—抽象的ですが、メンバー各々にとっての『PUNK』とは、言葉に表すとどのようなモノですか?
「難しくなるので簡単に言うと、色んな意味で、最も影響されたもの。まさに『REAL ROCK'N ROLL』！目指します！頑張ります！」
—周りの気になるバンドは、どんなバンドですか?
「★HISATAKA★, CRITICISM ARMAMENT, DOROCHYS等…みんな渋いです。何せLIVEが「ばけもの」なバンドが周りに多いので、大変に刺激を受ける」
—昨年の秋にリリースされたEPの出来は、今振り返ってどうですか?
「かなりRAWな感じで、あれはあれで良かったかな? 最初は絶対にシングル盤のレコードを出したかったので、音の出来/不出来は別として、満足している。気分は次回作へ！」
—今後、リリース予定はありますか?
「THE INDEX, キャラクター, ★HISATAKA★, ドロアス等とオムニバスCDの予定あり。あと、CDの単独作も計画中」
—最後に何か。
「LIVE！LIVE！LIVE！！！！！思いっ切りLIVE BAND！」

EXPLOSION SACK

EXPLOSION SACKは大阪で結成されたPUNKバンドである。80's UK PUNKを基調にしたサウンドながら、予想もしない展開の曲、激しいライブパフォーマンスなどが、他に類を見ない存在感を放つ。極めて原初的なPUNKサウンドながら、マニアックなPUNKファンからの支持も多い。'97年頃から活発にライブ活動を展開し、2000年6月に岐阜の我意レーベルから出たオムニバスCD“リアルエゴイズム”に2曲参加、そして同じく9月にBRONZE FIST RECORDS傘下SHOT&SHOUTレーベルより、待望の1st 7"EP“WHAT'S JOKE !?”を発売した。5月某日、彼らのBEARSでのライブ直前に、楽屋にて話を聞いた。

—昨年秋から冬にかけてのレコード発売記念ツアーはどうでしたか?
DAI(以下D)「ツアーは楽しかった!」
KAZOO(以下K)「楽しかったね」
MASALL(以下M)「もっと色んなトコ行きたいね」
K「どこもお客さんが良かったね、全部」
—特に印象に残ったライブは?
D「僕は姫路かな?」
K「うん、姫路は客層が若い!」
WATARU(以下W)「個人的には岩国が一番調子良くて、楽しく出来ました。まぁどこへ行っても楽しかったけど」
K「東京も良かったなぁ」
D「東京は冷たい風やって云うイメージがあったから、ギャップが激しかったですよ、良い手応えがあって」
K「月曜日やのに、ぎょうさん(客が)入っとったもんねぇ」
M「知らんトコでやるのは楽しいわ、それにそれぞれの街でサポートしてくれる人達がおって、ホンマ有り難いですわ」
K「本州から出なアカンなぁ」
M「でも本州でもまだまだ行ってないトコ多いやん」
—和歌山はどうなん?(※バックの三人は和歌山出身)
M「和歌山は…ROCKをやってるのをあまり見た事がないなぁ、OLD TIME(ライブハウス)があるけど…、あぁ○○○○(MASALLの中学時代のバンド仲間がVocalの某SKAコアバンド)がやるみたいですね」
—四月に東京で二回やって、どうでしたか?
K「RYDERSが良い人達でしたね !」
M「呼んでくれたCHAIN-WHIPPED(雑誌)とELECTRIC SUMMERに感謝 !」
K「数少ないけど、対バンのSKA系見に来たお客さんでも食い付く人は食い付いてくれますね、レコードとかTシャツ買ってくれるし」
D「Tシャツばっかり出る傾向はありますけど。レコードを売りたいですね」
—地方の人は前もってレコード聴いて来てくれてたりするんかなぁ?
M「あぁー、それはないですねぇ」
K「昨年末から東京三回行きましたけど、前に来てくれてレコード買ってくれた人がまた来てくれるって云うのはありましたね」
D「Tシャツ二枚も買ってくれた人がいた !」
K「オレなんかサインしたもん(爆笑)」
D「(WATARUが) 横におってメッチャ悔しがってた(笑)」
M「オレやったらいらんて言われてもするのに !」
—今後の予定は?
K「呼ばれたらどこへでも行きます、夏には岡山と岩国があります」
M「とりあえず曲を増やさないと、アルバムに向けて」
—企画ライブ“NIGHT OF KINGS”やってるけど、呼ぶバンドの基準て云うのは?
K「やっぱりお世話になっているバンドを第一に」
—ずっとBEARSで?
M「うーん、バンドたくさん呼びたい時はCLUB WATERも取りたいですね」
—今振り返って、EP(“WHAT'S JOKE !?”)の出来はどうですか?
M「僕的には、いつもと同じで録音が終わったらそんで終わりで、自分でもあんまり聞かないですね」
D「もう今、歌い方とかEPと変わってる部分もありますね」
出来は満足してる?
M「うん、そん時そん時で完璧とは言わないけど、満足はしてる」
—フランスから出る予定のオムニバスがあるらしいけど…? 他にどんなバンドが入るん?
K「えーっと、YOUTH ANTHEM, UNITED '97, REBEL YOUTH…あと、割とSTRAIGHT UP系のバンドが多かったような感じ」
M「けど、いつ出るかは分からないけど(笑)早よしてくれって急かされた割には」
—何てレーベル?
K「えーっと、WORSTY、ですね」
—海外はエエ加減やし、そんなモンやわ。

EXPLOSION SACK official web site
URL…
http://www.h2.dion.ne.jp/~esack
mail…k-sack@nyc.odn.ne.jp

神戸を中心に活動する三人組・HATE　NO.3。音的にはGRIND　BEATも取り入れたHARDCOREサウンドでありながら、その活動姿勢や歌詞などから、Oi/SKINS的なSPIRITを強く感じさせる希有な存在のバンドである。また、企画ライブ"LASTED　CHAOS"では、他地方のバンドも積極的に招くなど、THE　FUTURESと共に、これからのシーンを背負ってたつべき存在になって欲しいバンドである。アンケート形式で応えてくれたこのインタビューは、HATE NO.3の回答ということで、個人の回答ではない、との事。

—結成のいきさつを教えて下さい。

「約四年前、以前からの友達であったG&VoのイケジリとB&Voのハシダで、"何か面白いバンド"をやろうと言って、二人で曲を作り出し、当時イケジリが在籍していた別のバンドのドラム、ヤマグチにドラムを手伝ってもらう所からHATE NO.3は始まります。初めてのライブは1998年のVICTIMS　OF GREEDの谷口君企画の阪神大震災のベネフィットギグですね。その頃は本当、初期衝動に任せた感じの音でしたね」

—音楽的に影響を受けたバンドは？

「各個人では全然聞く音楽も違うので、一概にどのバンドから影響を受けたと言うようなことはいえませんが、HATE NO.3の音として、又、各個人が共通して好きな音楽として、FASTでHATEでANGRYなHARDCOREとHEAVY　METALというのが挙げれると思います。その音を自分等なりにうまいこと消化して、自分達の音というものを確率していきたいですね。まぁ、自分達のフラストレーションをぶち壊してくれる音というのが大前提としてあるので、その時の気分によっては全然違う感じのものになる可能性もありますけど、基本は先程挙げた音の感じですね、はい」

—今、活動しているバンドで気になる、または姿勢に共鳴出来るバンドなどおりましたら教えて下さい。

「音がかっこいいと思えるバンドと言うのは、これまた、たくさんいるので一概には言えないのですが、姿勢と言う部分も含めてでしたら（日本のバンドに限らして言わせてもらいます）神戸のバンドのやることには嫌が応でも気になりますけど、やっぱり、CRIKEY CREWは外せ無いですね。音はもちろんですけど、やってることも非常に面白いですね。これからのアプローチの仕方には要注目ですね。それに合わせてのFINAL YOUTH、LIFE ALIVE、STRONG CROWDの動向も非常に気になりますね。身近な所では、やはりTHE FUTURESですね。彼等のやることは面白い（音も含めて）。芸術性が高いといえば誉め過ぎかもしれないけど、やっぱり面白いですね。MEANING OF LIFE、又、その周辺のバンドの今後の動向は気になりますね。後、最近の収穫としては、CONFUSED INSANITYとSTUBBORN FATHERですね。これからのアクション要注目の面白いバンドと出会えたな、と実感してます。音はもちろんですが、姿勢と言う部分で共鳴出来るバンドとはこれからも、一緒にやっていきたいです」

—これまでのリリース作品は？

「デモテープ２本とMCRのオムニバスに一曲ですね。でも、この中からの曲は現在ライブではやってないです。その当時やりたかった音というものをその時に収めたので、その曲１曲づつには悔いはないです。現在は現在で、更にその当時のものを進化させた感じの曲をライブで演奏し、提供していってる感じですね。確実に進化していると言う自負はあります」

—企画ライブについて、どういった考えで行ってますか？

「基本的に僕達の企画"LASTED CHAOS"は、その当時一緒にライブをしたいと思えるバンドとライブハウスのブッキングで出会えなかったので、ならば自分達で集めてくるしかしょうがない、というところから始めたものです。自分達が客として見て、面白いと思える企画というのが大前提なので、そう言う意味では、とても自己満足的なものであるように思います（しかし、その部分がとても大切なんだと思いますが）。その自己満足的なものに共感してくれる人々と更に面白いことをしていくという感じで、今に至るように思います。自分達の住んでいる街、神戸が面白くなれば、それに越したことはないですからね。ただ、街の為、シーンの為かといえば、そんな大層なものではないですね。なんでもOKという訳ではないですし。自分達と共鳴、共感できる物の考えをもった人達、バンド（自分達も含む）の次なるステップにおける一つの掛け橋になれば幸いですけど。あくまでも自己中心的なものではあるけれども、常に自分達の中にある明確な一本の筋は通しつつ（とても大切な部分ですね）新しいものを提供していく（もちろん、そこには上や下といったものは関係なく）、又、自分達にとっての刺激になるようなものを今後も続けていきたい、と思います」

—自分にとっての"PUNK"と言うものはどんなモノですか？

「逆に、皆さんにとってのPUNKと言うものを教えてほしいですね。もし、その言葉が、自分達の音楽や行動、発言、はたまた服装等の個人的なものを制限してしまうものであるならば、僕達は全く必要としません。僕達は、"PUNK"という概念に殉じて生きるつもりは全くないですから。もし、PUNK教本みたいなものがあり、人がそれを押し付けてくるのであれば、僕らは即座にやぶって捨てるでしょう。そんなもの、そこらの新興宗教と変わりませんからね。と言う訳で、僕達自信は特に意識しているものではありません。僕達の音楽、行動、その他が"PUNK"であるというのであれば、それはそれで構いませんけど、そういった定義付け的なことは第三者におまかせって感じです。そんなことよりも、自分達が常に自分達らしく在ると言うことの方が、僕達にとっては大変重要です。自分自信が満足できるものであれば、なんだっていいんじゃないでしょうか？結局は自己満足ってことですかね」

—今後のリリースの予定などはありますか？

「この夏から秋にかけて、自主で７インチのレコードを出そうと考えています。日にち等は特定できませんが、必ず出したいと思います。現在のHATE NO.3の集大成的なものを作りますので、是非、機会があれば聞いてみて下さい。宜しく！スタイルは違えども、目指すものが同じであるならば、共に闘争していきましょう。DON'T FORGET THE STRUGGLEということで、インタビューして頂き有難うございました」

連絡先：イケジリ　トシアキ
神戸市東灘区住吉山手８丁目１－３９
e-mail: ike-san@sanynet.ne.jp
URL: http://www.sanynet.ne.jp/~ike-san/INDEX.htm/

THE BLAST presents

BARK BOX

THE BLASTは地元・奈良を中心に活動している。日本のPUNK/HARDCORE系のバンドから強い影響を受けながらも、高揚感を感じさせるパワフルなコーラスワークなどが特徴的な、そのドライブ感溢れるRAW PUNKサウンドは際だった存在感を感じさせ、今や関西を代表するPUNKバンドになりつつある。4月12日の夜、奈良は生駒駅近くに昨年末OPENしたTHE BLAST presentsのPUNK SHOP "BARK BOX"へ足を運んだ。4月1日から、夜20:30からは"BAR BARK BOX"として営業している。VocalのKUBOに話を聞いた。

—店を始めるキッカケは?
KUBO(以下K)「10代の後半からPUNK/ハードコア系の店を持ちたいって云うのがあって。で、最初は大阪でやった方がやり易いかもって思ったけど、現実的に考えると競争率も高いし、で、奈良にはそういうSHOPがないし、良く考えたら鋲も革ジャンも売ってない。古着屋はあるんやけど。で、インディーズのレコードも売ってない。奈良でやったろうって思い出したのは20代に入ってから。まぁタイミングが合ったんですけど」
—実際やってみてどう?
K「ヘビー…ですねぇ」
—どういうトコが?
K「まず新規開拓がやりにくい。店構えが入りにくい感じの入り口で…店に一回入って何か買ってくれたヤツは必ずまた来てくれるんですけど。一

回しか来てないヤツは多分おらんと思う」
—で、4月から同じ店内でBARをやり始めたのは?
K「最初の一ヶ月くらいは夜遅くまで開けてたんやけど、客がたまにポロポロ来て、お香買いにとか。これは『夜も使えるやん』て思って。BARやりたいって言うのもオレ個人の夢でもあって。で、色々と手伝ってもらってた人間の内、MORLEYが昔からBARがやりたいって言うとって。それやったら家賃払ってもらって昼はオレ、夜は彼(MORRY)って分けてやろ思て」
—BARの方はどうですか、MORRY君?
MORRY(以下M)「寒いですね(笑)でも自分が飲みに行く事を考えれば安いもんやと(爆笑)それが一番大きいかな?まぁ、誰かいるかなぁって気軽な気持ちでみんな覗いてくれたら良いですね、まぁ溜まり場って感じで」
—そのノリが近所の人らに広がったら面白いなぁ。
K「えぇ、…まぁここらは面白いヤツ多いですよ、サラリーマンのおっさんとかおネエちゃんとか。そんな人が来てくれたら思うんですけど」
—さて、THE BLASTのバンドとしての状況は?
K「TAMOTSUとKAZUYAが抜ける事になってイタイですね。Guitarは19才の若いヤツと合わせているトコですね。Bassは募集中です、まぁぼちぼち行きますわ」
—奈良のシーンはどうですか?
K「今年に入ってからはNever Landは動員が減っているみたいですね。メジャーどころが来たらそこそこ動員があるという、ちょっと前の地方みたいな感じになってますね、オレらが一昨年ツアーで回った場所みたいなノリで」
—新しいLIVE HOUSEが出来たよね?
K「はい、生駒にREHB GATE(レイブゲイト)が出来ました。店のオッサンはちょっと頑固なトコがあるみたいやけど、まぁオレらの事を思ってくれてはいるみたいですね」
—バンド自体は増えてるん?
K「最近、ポロポロは聞きますけどね、奈良の南のPUNKSの連中が店に来たり。80'Sっぽいカッコしてる奴が何人かいて。しっかりバンドが回ってないだけで、上手い事行ったら多分、その手のバンドが3つ4つは出来るんとちゃうかな?そうなったら面白いけど(笑)」
—まとめるのしんどいから(笑)、この辺で最後の一言を
K「BARK BOXオリジナル商品がたくさん出てますんで、ヨロシク!」

THE BLAST and BARK BOX
official web site
http://www3.kcn.ne.jp/~bark-box/

OLHO SACO'S

BACK to 80's

ご無沙汰しております、EARWIGのサコです。この度、高崎君から80'sHARDCOREのオススメ・ええバンドがあれば紹介して欲しいとの依頼を受けたので個人的な好みで紹介させて頂きます。
UK/USもいっぱいええバンドあるんですがパンク天国(※DOLLから出ている70'S～80'S PUNKの紹介本)で紹介されてるのであえてパスしました。

VERGOGNATI / STINKY RATS

ツインボーカルのイタリアンハードコア。前へ前へのつんのめり気味のドラムと泣き叫ぶようなヴォーカルスタイルに泣き泣きのギターで自分たちの怒り・悲しみを表現している。メンバーみんな若そうや。他に音源があれば聴いてみたいですなぁ。名盤そして必聴である。(CHAOS PRODUCTION 5) MLP '85?

WIR SIND SO FREI / EXTREM

V.A./CREANSE THE BACTERIAにも参加していたオーストリアのバンド。ちょうどクロスオーヴァーが出てきた頃で音によく表れてる感じがする。ええ感じのドラムのモタリ具合と曲全体のB級のクサさがええと思うのは僕だけでしょうか？(DURCHBRUCH RECORDS 01) EP '87

BACK TO THE STONEAGE / PUKE

SWEDEN独特の泣きソング全開の好アルバム。ASTA KASKをもっと荒っぽく複雑にしたよう音がたまらん。他に"BACK TO THE 30'S"EPも出してるがそちらもええで。なんでこんな曲が作れるのか不思議やわ。個人的に墓まで持って行きたい一枚。(CBR FRIDAY 13) LP '87

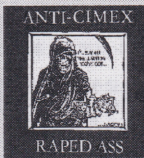
INGEN FATTIGE,INGEN RIKE / KAFKA PROSESS

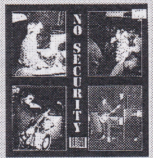
DISORDERとのSPLITで知られてるノルウェーのバンドのSPLITの音源含む全音源集。こちらも随所に哀愁のマイナーなメロディーとピリピリした緊張感漂う疾走するハードコアを展開。当時聴いたことあったけど、今になって再確認。80'S EURO HC 恐るべし！SPLITは高いのでこちらで我慢。

EVERYTHING FALLS APART / CHALLENGER CREW SPLIT

変わったギターリフと曲構成に歌うヴォーカルがからむE.F.A.と、INFERNOをもっと激しくした感じのC.Cのおいしい GERMAN HARDCORE SPLIT。個人的にはE.F.Aの方が好みやけど流血(WAG PLATY)はC.Cの方がエエって言うてた。(X-MIST,DOUBLE A XM004 AA006) LP '86

SOHN GOTTES / INFERNO

日本でもわりと知名度のあるV.A/CREANSE THE BACTERIA,WELCOME TO 1984にも参加してたドイツの重鎮INFERNOのアメリカ盤1st7"EP。静かなイントロから始まり爆裂ドラムとブンブンうねるベースラインにジャリジャリしたギターが刻みたたみかけるヴォーカルがのるジャーマンハードコア。かっこええぞ！(RISE & FALL 001) 7"EP '85

RAPED ASS / ANTI-CIMEX

初めて聴いた時かなり衝撃的やった。僕のSWEDISHを聴くきっかけにもなった一枚。こっちはSWEDENの泣きと怒りの怒りのほう。かなり怒ってますな。音作りといい曲といい文句無しやね。ガムシャラというかブチ切れというか音楽に対する情熱が熱く伝わってくると思うのは僕だけか？。大音量で聴け。(HARDCORE HORROR RECORDS 002) 7"EP '83

NO SECURITY / DOOM SPLIT

DOOMもええけど今回は置いといてやっぱりNO SECURITYのほうがええんちゃう？なんでDOOMの方が人気あるのか不思議やわ。DISCHARGE直系でたたみかけるVOCALに荒々しいバックが絡み合う疾走感バリバリのSWEDISH HC。CD編集盤にもこん中の曲入ってるけどこっちのヴァージョンのほうが断然ええ。(PEACEVILLE VILE11) LP '89

OPEN EYES,OPEN EARS,BRAINS TO THINK & A MOUTH TO SPEAK / UPRIGHT CITIZENS

M.M.R.のオムニバスWELCOME TO 1984にも収録されていたドイツの古株バンド。有名ですわな。ブチ切れの曲もあればじっくり聴かせる曲もアリの静と動2つを兼ね添えた強力なバンド。ドイツ盤とアメリカ盤の2種アリ。曲順がそれぞれ異なり、ジャケも若干違う。

V.A./I'VE GOT AN ATTITUDE PROBLEM

なかなかええバンドのDEMO TAPEをリリースしてたBCTからのお試し盤的ワールドワイドオムニバス。MOB47,WRETCHED,RAW POWERは言うこと無しやろ。他にユーゴスラビアのQUAD MASSACREと今はメロコアに分類されてるオランダのFUNERAL ORATIONもかっちょええ。(BCT&R/LOONEY TUNES 3) 7"EP '87

OSSERVATI DALL'INGANNO / INDIGESTI

RAW POWER,WRETCHEDと並ぶイタリアの代表バンドの一つ。初めて聴いた時はなんじゃこのVOCALは？と思ったが聴けば聴くほど味の出るバンド。ピリピリしたクセのあるイタリア独特のサウンド。好き・嫌い別れそう。しかし、何でイタリアはCCMとかNEGAZIONEとかこんなバンドが多いのだ？(T.V.O.R. 01) LP

WHITE MALE DUMBINANCE / B.G.K.

知ってると思うけど、V.A./P.E.A.C.E.COMPやV.A./WELCOME TO 1984にも収録されてたオランダの大御所B.G.K.のこれぞハードコアって感じのたたみかける爆裂全開の息もつかせぬシングル。最近COMPLETEで編集盤もでました。問答無用、やろ？(VOGELSPIN) 7"EP '84

まだまだ他にもいろんな国にたくさんバンドがあり、ええバンドもいっぱいあるけど紹介されまくって知ってるバンドばっかりやろうし、あえてあんまり知られてないバンドを中心に選んでみました。こんなんでも聴いてみたいのとか見つかれば探して聴いてみて下さい。ハードコアパンクというものに出会ってかれこれ15年ほど経ちますが、当時聴いて衝撃・感動を受けたものが15年経った今も色褪せる事無く僕の中に輝いております。バンドをやろうと思ったきっかけもここからやし、これからもまだまだ聴き続けて行きたいしそれらを枯らすことなく伝えていけたらいいものだと思います。ここにいろんなバンドを紹介しましたがあくまでも僕の好みですので、ええもんは自分自身で見極めてください。それでは…。

Hidetaka Saco
e-mail:olhosaco@mbox.kyoto-inet.or.jp

THE FUTURESは97年1月に結成された大阪のPUNKバンドである。音的には80'S USハードコアの流れに強く影響を受けているように感じるが、当人達の柔軟な思考/姿勢はその範疇に留まるモノではない。メンバーはVocal YOJI, Guitar TETSUYA, Drums MAKINO, Bass RYOの４人。５月某日、梅田Bass On Topでの練習を終えたメンバーに、そばの居酒屋で話を聞いた。

—新しいメンバーの方を紹介して下さい。

TETSUYA(以下T)「自分で言って」

RYO(以下R)「あ、Bassを担当しているNANAの代理のRYOと申します」

T「もうエエって(笑)」

R「他にはLAB CRYとグラインドオーケストラってバンドをやってます」

—LAB CRYってどんなバンドですか?

T「LAB CRYでFUJI ROCK出るんですヨ、こいつ一人だけメジャーアーティスト(笑)」

R「いやいや、まぁ楽しい音楽はたくさんやりたいなあと。で、THE FUTURESもすごい楽しんでます」

—元々知り合いで?

T「いえ、Bassが抜けるって決まってからはもう手当たり次第に声掛けまくってて。で、WHAT HAPPENS NEXT?の打ち上げの時に声かけて。35人目くらい(笑)で、二つ返事でOKしてくれたのも彼だけやったから。全然、何をやっている人かは知らなかったんですけど、昔SPASMAMでダンサーやってたのを客として見とって、良いなぁと思って」

—年令は幾つですか?

R「池田君(TETSUYA)と一緒で28です、元々ハードコアのLIVEで池田君とは会ったりしてました」

—THE FUTURESはどうですか?

R「周りにないような音楽ですね、僕はROCKが好きなんですけどハードコアも好きで、ハードコアの中にROCKがあればっていう…まぁ同じなんですけど。で、(THE FUTURESは)ライブも楽しそうにやってるばんどやったし、是非やれるんならって感じで」

メンバーとしては正式ですか?

T「それはRYOさん次第って事で(笑)」

R「他のバンドとの兼ね合いがあって、もしもの事もあるかも知れないから。出来るだけライブはたくさんやりたいんですけど」

—最近出た音源は?

T「ANSWERから出たDIOS HASTIOとのSPLIT EP…10月くらいに録りました。前のBassの最後の作品です」

—あ、今までの音源て云うのは…1st 7"EPとTHIS IS THE LIFE(MCRからのV/A)と…。

T「(高知の)男道の三枚組LPのV/Aが…あれはあんまり聴いて欲しくないですけど」

—最近、共演したりしてるバンドで、気になるバンドは…?

T「えーっと、★HISATAKA★、WAGPLATY、MAN FRIDAY、DIRTY IS GOD…あ、EXPLOSION SACK」

YOJI(以下Y)「EXPLOSION SACKはかなりイイ」

T「あ、あとODDBALL!デカいですねぇ」

MAKINO(以下M)「一緒にやるバンドはみんな面白いですね」

—足の怪我はだいぶ良くなった?

M「ええ、PLAYする分にはもう慣れましたけど」

—いつ怪我したんやった?

M「(SPLITの)録音の二日くらい前です」

—…さて、みんなにとってのPUNKとは?

Y「あんまり『PUNK』とか、これはこうあるべきやって云う物の見方をしないって言うか、カテゴリーがあまり好きじゃないですよ。やっぱり『ROCK』っすね(笑)」

企画ライブしたりツアーしたりって云うTHE FUTURESの姿勢は『PUNK』やと凄く思うわ。

T「もちろんやり方とか、あと聴くモノもPUNK/ハードコアが主に好きなんですけど、でもやっぱりROCK全般が好きで。とにかく『好きな音楽』をやりたいですね、形式に捕われずに。たまたま出たモンが激しく聴こえるかも知れんけど」

Y「こうあるべきや、と云う考え方をしない、好きなようにやって行くのがポリシーですね」

—ツアーは頻繁に行ってるよね?

T「まぁ呼ばれたら行く、と云う感じで。何か公民館みたいなトコの音楽室とか(笑)」

やっぱりみんな、バンド中心に動ける仕事を選んでるん?

T「僕はそうですね、この人(RYO)は無職ですけど(笑)」

R「エエ、そうです。サラ金生活(爆笑)」

M「…ある程度は融通の利く仕事は選んではいますね」

—企画ライブをやる上でのポリシーって言うのは?

Y「選ぶバンドについてはやっぱり好みですね、それはもう感覚的なモノで」

—最後に、今後の展開などを…。

T「来年、MCRから1stアルバムを出します。アナログは自分達で出すんですけど。マイペースでやって行きます」

—(MAKINOに向かって)どう?

M「いや、特に…」

T「…キースムーンは最高ですね!」

—何?いきなり…(笑)

Y「…そうですね、地方の人とかも誘って欲しいですね、何処へでも行きますよ ! 都合がつけば」

T「あと、ライブは月一ペースでやりたいですね」

—MCRからアルバムを出すと云うのは…?

T「弓削さんから話を頂いて。MCRは好きなレーベルやったんで」

JERK OFFレーベルを主催するTHE FUTURESのTETSUYAよりお知らせです。「80'S UKタイプのバンドばかり集めたV/AをJERK OFFをリリースします。収録バンドはTRATOR-43, THE ADDICTION, ORDER, HAT TRICKERS, REBEL YOUTH, MELODIES, RESISTED」…LP500枚、CD1000枚プレスだそうです。

Dorochys

'88年に結成され、大阪・難波のBEARSを中心に活動するDOROCHYSが、この度結成13年目にして初めて自身のレーベルからアルバムをリリースする。現在のサウンドは、MOTORHEAD的な荒々しさ/轟音の中に繊細さが垣間見られるサウンド、とでも表現すべきだろうか? 否、彼らこそ究極のライブバンド、是非ともあなたの目と耳で確認して欲しい。結成時からの唯一のオリジナルメンバーであるTSUKASAに、アンケート形式で答えてもらった回答に、DOLL10月号のインタビューに掲載しきれなかった分もおりまぜました。

—結成当時のいきさつを教えて下さい
TSUKASA(以下T)「88年の春に、最初のメンバーが集まった。ほんでその年の秋にベアーズで初ライブ。そのころ俺は別のバンドもやってたんやけど脱退して、ドロシーズ1本でやっていく事にした。13年前の話」
—音的にはどのようなバンド/音楽に影響を受けておられますか?
T「80年代のハードコアパンク, 初期パン, R&R、THE DAMNED、MOTORHEAD, DEAD BOYS, SHAM 69, STIFF LITTLE FINGERS, ANTI-NOWHERE LEAGUE, DEAD KENNEDYS, BLACK FLAG, DICKIES, MC5, STOOGES, BLACK SABBATH, 外道……キリがないのでこの辺で」
—現在のメンバーはどのようにして加入しましたか?
T「VOCAL&GUITAR/TSUKASA, BASS&VOCAL/OGA, DRUM&VOCAL/TSUKATANI。BassのOGAは、まだバンドが４人編成だった94年の夏にGuitarとして加入。DrumsのTSUKATANIは、95年の夏に加入。97年の秋に前のBassが脱退して、OGAにチェンジ。トリオ編成になり今に至る。俺はオリジナル・メンバー」
—４人から３人になったというのは…?
T「当時のBassが辞めた時に、オレが元々Guitar弾けたから『３人でやろか?』言う事になって、音もガラッと変わったかな?」
—よりストレートでハードになったと思いましたね。
T「４人の時は他にない、自分達の音を追求して行くあまりに、自分達でも何か分からんようになってきて。メチャメチャ真剣に追求してはいたんやけど…３人になってストレートになった、て言うか戻った感じかな」
—曲も入れ替わったんですか?
T「うん、そっからまた作り直して。他に結成当時の曲とかもやるようになってオレがGuitarを弾いたらもう『オレの音』、全部DOROCHYS。同じDOROCHYSの中で歩んで来て、 色々考えて変化して、今に辿り着いたって感じ…上手いこと言えてるかな?」
—御自身でPUNKと云うモノへのこだわり(精神的/音的)など、お持ちでしたら聞かせて下さい。
T「もちろんPUNKにこだわりはある。精神的にも音的にもそれ以外でも。今は精神的な部分が大きいかな。普段そうゆう事とか考えへんかっても体にしみついてるってゆうか。これからもずっとそうなんちゃうかな」
—今回、初めてCDを出す決断をされたのはどうしてですか?
T「単純に聴いてもらいたい、とゆう事で」
—アルバムの仕上がりに対する満足度はどれくらいですか?
T「これが今の俺らや!って感じ。ラジカセで大音響で聴いてほしい」
—普段の自分たちらしさを出すことは出来ましたか?
「俺らアホやから(笑)、アホはアホなりにブチかましたって感じ。３人になってアホになったな。前の４人の時も別の意味でアホやったけど(笑)すぐ脱いだり、暴れるとか。裸でバイク乗ったりとか(笑)」
—最後に読者のみんなに一言！
T「ライブに来て下さい」

HARDCORE KITCHEN

皆の出会える場所

4月12日の昼下がり、神戸のRecord Shop・HARD CORE KITCHENを訪ねた。店主のCOMET氏は私と同い年であるが、一つの生き方を体現している人物である。とにかく読んで下さい！

—まず、Record Shopを始めようとしたキッカケは…?

「キッカケは、やっぱり自分らの街にそういうPUNK/ハードコアのレコード屋があったらいいなぁ、と言うのがあって。その前に、神戸の何軒かの店に、『(PUNK系のアイテムを)仕入れてー』って言うたりしてて、でも神戸って中古レコード屋ばっかりで、『新品なんか仕入れてたら、割に合わへん』とか言うとったから」

—そもそも何歳くらいからライブ見に行ってたん?

「中三くらい」

—どんなバンドを?

「MOBS, CITY INDIAN, LAUGHIN' NOSE, COBRAとかGAUZE, LIP CREAM, OUTO, S.O.Bなんか」

—その頃、神戸の何処に観に行ってたん?

「いや、神戸じゃなくて、全部大阪。(その頃)神戸でライブ観た云うたら…チキンジョージでLAUGHIN' NOSEくらいかな?何せ当時、神戸はPUNK出来ひんかったもん、『ハードコア禁止』とかで。だってオールスタンディングのライブハウスなんかなくて、椅子とテーブルがあったもん、アートハウスとかでも」

—スタークラブって何時出来たんやったっけ?

「96年」

—SHOUTって店、あったよね?確かPUNK系で唯一出来たトコじゃなかったっけ?

「う～ん、でも何の役にも立ってないよ、ただ単にライブやらしてもらうって感じで、シーンを盛り上げようってのはなかったから、企画とかもやりにくかったと思うし、『コメ禁』やったし(笑)」

—コメ禁…(爆笑)

「うん、神戸全部『コメ禁』やったから(笑)でも解除してくれたコがおんねんけど、解除になったとたん、その店全部潰れてもうたし(笑)…で、今のシーンに至る流れって云うのは、スタークラブのボスがスタジオやっとって、企画ライブやってて、それが今の神戸の繋がりとかに役に立ってるんちゃうかなぁって思うわ。ライブハウスよりもその時のスタジオの方が…まぁそこでも出入り禁止食らってるヤツ何人かおったけど…実は僕も立ち入り禁止だったりして(笑)」

—で、店の話やけど、実際に始めたのは…。

「96年の頭に、ダンボールでライブハウスの前とかスタジオ、レコード屋に(!)間借さしてもうてやったんが最初かなぁ、ワンコーナーみたいな感じで…」

—それは新譜とか自分で仕入れして?

「うん、新譜とか…でもその時は自分で店をやろうとか、そこまで思ってなかったもん、大学行くつもりでおったから」

—大学?行くつもりで?

「うん、一時帰国って感じで」

—外国に行ってたのは、面白そうだったから?

「外国?行っとった理由?地震で家つぶれたやん、家かなりデカい借金出来て、ちょっと出稼ぎで東京でも行こか思て。で、兄貴に相談したら、土方やったらお前の身体はあと三年くらいしかもたんから、とりあえずNew York行って、将来性のあるもん見つけてきたら?言うて。それには英語も勉強せなあかんやろし、そんなん向こう行ったらやれるようになるんちゃう?言う感じで」

英語はしゃべれんの?

「全然(爆笑)…着いた途端に向こうの保護者から『ビザがない、すぐイギリスへ飛べ』言われて(笑)。そんなん英語はしゃべられへんし、出迎え来てくれるか言うたら誰も来てくれへんし。こっちは英語は『GO』しか言われへんのに(爆笑)プラカード持ってタクシーのおっさんかに『Go!』言うて(笑)。ほならそこでそのプラカード盗られそうになったりして、何とか辿り着けた、みたいな。そんなんでイギリス行かれへんし、しばらく期限切れるまでおってから、何とか(英語を)しゃべれるようになって、それからイギリス行ったりしよか思ってたんやけど…New Yorkに雪降るの知らんかって(爆笑)…バイクも乗りたかったから、仕事しながらバイクでも買おか思て現場行こう思てたら雪降っとうし。それで一回、日本帰る言うて」

—じゃあそれ以来は(海外は)行ってないん?

「こないだ、仕事で西海岸の方は回ったけど…で、当時、一度帰って来てまた行こ思てたらでっかい病気してもうて。アメリカって医療費がムチャクチャ高くて。盲腸で保険入ってなかったら90万とか100万とか、そんなん平気やもん。そんなんでまた発作出たりしたらOUTやん」

—東京はもっと前から行ってたん?

「うん、東京は高校卒業して19歳くらいから。ほんまは一週間の予定が、一年近くおった(笑)。自分のバンドのライブのブッキング取るつもりでおったから。そのバンドってまだ練習もしてなかったんやけど、『ブッキング取ってくる!』言うて気合い入れて行ったけど、それを忘れてズルズルと(爆笑)」

—(笑)…で、店の話に戻って、始めた時の状況って言うのは…例えば資金面とか…。

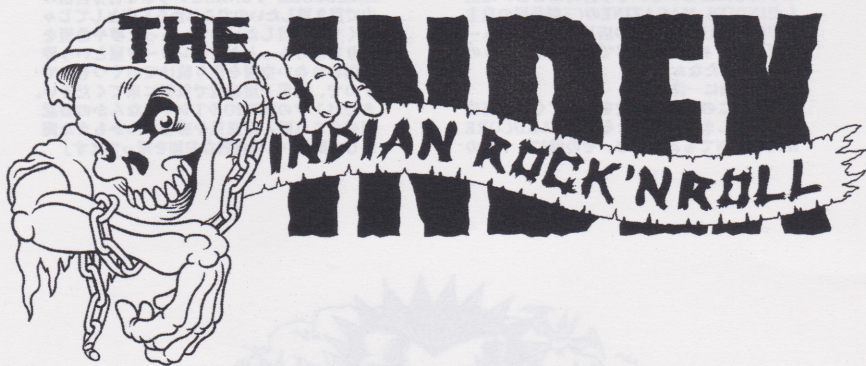
「資金は…地震で自分の家潰れて国から借金して、あと土方で気合い入れて溜めたんやけど、それでも自分に取ってはものすごい大金やってんけど、いざやってみると、少なかったなあ…だって自分の家よりレコード少なかったもん(爆笑)。毎日、人が来る度に頭下げとったもん、『ご免なさい、一年後には倍になってるから』言うて(笑)倍になるとは思ってへんけど、取り敢えず言うとかなマズい思て(笑)」

—その頃から神戸は色んなバンドが個々に企画ライブをやり始めて、盛り上がって来たやんね?

「そうやね…うーん、地震後かな?元々おった人間が中心に『地元でライブせなアカンやん』言うて、その土台は既に出来てたね。…で、元々大阪に出てた若いコらは神戸に誰がおるか分からんやん、それが神戸にこの店が出来て、店に来る事によって顔馴染みになってやり出したり。初めの内は自分から企画もやってたりしたけど…」

—そういった店とシーンが連動するって動きは、日本ではあまりない動きとちゃうかな?

「そう…かなぁ?本当僕の理想は、もっとバンドのメンバーやお客さんやいろいろな子が積極的に参加して協力しえてそれが継続しながらもっと大きくする事を夢みています。もちろん最終的に世界中巻き込みたいねえ。日本

で言うと岡山とか名古屋とかもそうなんちゃうかなぁ?まぁ理想としてはその二つの都市を混ぜたような街って感じで、プラス…個性ある街にしたいとは思うけど」
—最近のシーンとかバンドやってる人間とかの傾向ってどない思う?昔と比べたりして。
「認知されたから、お手軽になってきたような所もある気がするし、昔は多少のリスクはあったけど、今はお金さえあれば何でも聴けるし、昔から比べて熱さが無くなっとんちゃうか、思い入れ少ななっとんちやうかなって思うけど」
—それは何処の街でもそうやわ。
「うん、お客さんの熱さも昔より少ないし。バンド側も、全部ではないけど変な打算的な事を考えてるバンドも多少なりとも見受けられるし。熱さが無かったら意味ないと思うわ」
—うん、そやね。今は若い人の娯楽でも昔より選択肢が広がってるし、それも原因かもね。
「そうそう、結局メディアが『これがエエ』ってなったらそれになってしまったり、自分の耳で聴いてへんヤツもおるって気がするなぁ。自分の目での『発見』が減ってきとるんちやうかなって思う。『ジャケ買い』なんかも減ってる気がする。…何処でどう間違えても俺はHXC/PUNKっていうのは流行りでもディスコミュージックでも無いと思うねんや。きっかけとしては良いと思うけど。あんまりもてはやされて、踊らされているだけのような気がするのもどうかなあ..少なくともTVや雑誌に出捲ってただちやほやされるだけとか大資本による税金対策やヴィジュアル系や歌謡曲のたぐいとは、一緒やと思って欲しくないし少なくとも時代に流されてやるもんじゃあ無いと思っています。」
—そんな中で、神戸のバンドで、(我々と)同世代は除いてどんなバンドが頑張ってますか?
「そうやねぇ、今やったらIMMORTALITY, HATE No.3………うーん……」
—…あれれ(笑)
「…最近、活動停止が多いわ。CRITICISM ARMAMENTもメンバー脱けたし、武羅吸鉄怒が辛うじて耐えてるけど。あ、ANGER FLARESは頑張ってるね。後、REBEL YOUTH。REBEL YOUTHのVocalのヨーカイみたいな熱さをみんな持って欲しいなぁ」
—よぉ考えたら(HATE No.3の)池尻君てすごいわな、あの年齢で。むっちゃしっかりしてるし、オレなんかよりも。
「うん、彼はコツコツタイプやなぁ(笑)…でも今、何処のバンドも人材不足みたいな感じするなぁ、音楽聴くヤツ増えてるからもっと熱いヤツ増えたらエエと思うけどなぁ…、でも最近、店が忙しくてバンドの連中と話す機会が少ないなぁ、こっちも店が忙しかったりするし」
—定休日はないん?
「不定休。体調が悪い時だけやねぇ」
—最近の店の状況は?
「状況…悪いやろ〜(笑)中古買取り強化中です!」
—トータル的な店としての目標って云うのは…。
「シーンをもっと根付かせたい、自分の街で。自分の街を盛り上げられたら次はよその街を盛り上げられるし、よその街のバンドを神戸に呼んで。神戸に受け入れる土台があったら呼んだバンドも盛り上げられるやん。それによってまたその街と協力も出来て。でも何が悲しいって、『神戸でライブのブッキングしてくれへん?』て言われても今の僕にはそこまで手が廻らないし力がないって言うんが…メッチャ悔しいってトコでもあるしねぇ」
—レーベルについて話して下さい。
「去年、第一弾でIMMORTALITY出しました。神戸を中心に頑張っているBRUTAL DEATH色の強いハードコアバンドです。第二弾が京都のCRANK、これまたシーンを盛り上げた立役者的なバンドで。第三弾か四弾でJOHN HOLMEZのTribute。…でも解散するとは思ってなくて、計算外やったけど(笑)あと、PUNK/ハードコアの中でのNONジャンルのオムニバスを近年、製作予定、CRUSTありSKINありNew Schoolありって感じの」
—そもそも“HARDCORE KITCHEN”て名前の由来は…?
「まず、ハードコアって音楽もありぃの服もありぃのやけど、最終的には人間性って言うのが第一にあるんやって信じているけど。…学校で教えてくれる事じゃなくて、生きて行く上で『これやったらアカン』とか言うのを教えてくれたのも皆こっち側の人間やった。エエなぁと思う考え方・やり方の人がたまたま皆ハードコアの人間やったって言う。もちろん音楽も服装もカッコ良かったけど(笑)『ハイリスク・ノーリターン』…それがカッコ良いとは思わないけど、リスクばっかり考えてたら何も出来ないし。そう言えばこないだ読んだINDIES MAGAZINEの(三軒茶屋の自主盤専門店)FUJIYAMAの店長のインタビューの『インディーズは88年で終わった』言うのもすごかったなぁ」
—ほな最後に一言!
「最後にこの発言の機会を与えてくれた高崎君に感謝します。何故なら僕はHARDCORE KITCHENでもあるけど、その前に、一人のHARDCORE PUNKSという事を自分自信の中で貫き通したいのでこれからも店としてじゃなくても発言したいので。もっと夢や希望を語りながらもっとただのレコード屋という枠に囚われない空間を作り続けていくつもりですので、駄菓子屋感覚で気軽に来てください。またバンドのDEMOやTシャツなんかの委託販売やこれ呼んだ意見や感想なんかもまた聞かして欲しいし積極的な参加を待ってます」

THE INDEXは1984年にキューピー(Vo)、小倉 (Ba)、KAZUHISA(G)、HAYATO(Dr)の4人によって大阪で結成され、自主企画によるライブ活動を開始、当時、共に活動していたTHE CANDYS、DOUBLE BOGYSらと“OUTLAWS”の名の元、関西のBEAT PUNK系バンドの中心なっていった。当時のBEAT系バンドの中でも特に、OiやSKINS的なSPIRITを打ち出していた彼らは、'87年に『MAKE MERRY』そして'88年に『ARE YOU READY? ONLY JUST GO !』の二枚のソノシートをリリース、そして'90年にはオムニバスCD『ウエスタン・カーニバル』に参加するなど、波に乗った活動を展開していたが、メンバーチェンジなどを経て、'91年春に解散した。

しかし'99年秋に見事復活し、積極的なライブ展開を見せる中、300枚限定7"EP『KUMO NO SHITA DE』を自主でリリースし、この度、自身のLABEL・OUT LAW'S RECORDSより初のアルバム『INDIAN ROCK'N'ROLL』をリリースする事になった。(ジャケットはSTAB FOR REASON のMATSU Qのデザインによる) 内容は、DOUBLE BOGYSのTRIBUTE CD参加曲、そして結成当時の音源2曲を含む14曲入り。

インタビュー開始時、既に泥酔していた私は内容についての記憶がほとんど無く、後からテープを聴いて、質問のまとまりのなさに赤面しました。にも関わらず、非常に協力的に答えてくれたキューピー氏には、ただただ頭が下がる思いです(ゴメンなさい)。下記、10代の頃のミーハーな私に戻っていたため、内容的に偏りが見られますが、許してチョンマゲ。

—まず、'91年春に第一期(?)THE INDEXが解散した理由と言うのは…?

「オレはずっとPUNKがやりたかったんやけど、Bassの小倉は当時、別にやってたバンド(オオサカンブルーパーズ)みたいなBLUES系がやりたい、言うてて。ある日スタジオの時に『潮時かなぁ』て感じの話になって。で、それ以来、小倉とは5～6年全く音信不通で電話も一切してなかったんやけど、ある時、飲みに行ったらバッタリ会うて。で、向こうから声がかかったんやけど、その時もまだ彼はBLUES的なノリを引きずっとって。俺はとにかく『PUNKがやりたい』言うのが強かったから、彼がいくつか持って来たブルーパーズの曲を、PUNKのノリを出すようにオレがアレンジして。そこらが再結成のキッカケやなぁ」

—で、THE INDEXとして'99年の秋に第二期の初ライブをされた訳ですが、オレはやっぱり『THE INDEX』でやる以上は、昔、好きで観に行ってた頃のモノを見せてもらおうやぁないか、とエラそうやけど思ったんですヨ…。

「まぁやってる方は何も考えてなかったなぁ。まして昔、見に来てた客が来る訳なんて絶対にあらへんと思ってたし、宣伝も大してしてなかったしなぁ。『昔のノリでやるからお前ら見てくれや！』言う気合いもなかったし」

—あの時のライブで既に今後の方向性って言うのは確立されてましたよね?

「うん…まぁとにかく活動を続けて、昔のノリを出せるかどうかって言うのが自分の課題で。『ノリ』っていうのは自然に出てくるモノやから。今は(再結成当時と比べて)昔の曲をやっても昔のノリを出せるようになってん。それはTHE INDEXとしてのお互いの方向性が見えたからやなぁ。…昔、自分らの方向性が見えへん時期があったけど…『ウェスタンカーニバル』('90年)のVAが出る前くらいかなぁ?まぁ旬の時ではあったんやけど、色んな音楽が入って来出した頃。でも自分らでは『これがオレらの色や』って良いように解釈してたけど。で、昔では出来なかった事…オレら一番初めはOiが好きでやり始めて、で、ハードコアが好きで、出来る曲もそんなんやったし。で、今もそういう色が出したいなぁ。オレが言うOiにしろハードコアにしろ、オレにとっては『PUNK ROCK』やねん。やり出した頃に戻るのはこの事やなぁ。途中で、メディア指向というか、注目浴びるためにこういう曲を作るとか、自分らのしたい音楽じゃなくて、インディーズの中のメジャーみたいな意識でやってた時期もあって。それがストレスになっていた訳やけど」

—そういえば、'91年の解散の時もBEARS、'99年の復活の時もBEARSですね！

「…復活して色んなライブハウス…BAYSIDE JENNYやFANDANGO当たったけど、結局、昔と変わらん目で見てくれたんがBEARSやってん。…昔、100人近く入った頃があって、その後30人とか(客が)減ってもBEARSは何の差別もなく受け入れてくれてるし、第二のエッグ(EGG PLANT)と言えるし…何かエエなぁ。あ、そうそう、('91年の) 解散ライブの時に天井蹴って空けてもうた穴がまだ残っとったなぁ(爆笑) ポコッて空いとんねん (笑) 」

—その、昔盛り上がってた頃のシーンって、
まりにもアッサリと消えてしまった印象がレにはありますね…。何やったんやと。

うん、そやなぁ、昔のシーンを築き上げた中って結構、(年齢的に) 早かったから、冷るのも早かったんかなぁ」

で、今回、ついにアルバムをリリースされ訳ですが、昔やっていた曲も入ってますよね?

うん、3曲、“GO FROM BAD TO WAR-’と“INDIAN ROCK”と“THIS ISN'T INAL RIOT”。こんな感じで当時(80年代)たかった、云うのを持って来た形になるなぁ。uitarも8割がたオレが弾いてるのも、説明しで『こんなんや!』言うのを見せたかってん」

でも清水さん(ついこの間まで在籍した女性タリスト)が弾いてる曲も含めて、成り立っいる部分もありますよね?

うんうん、もちろんそやな。けどコッチの文も多かったから彼女の満足度はわからんど、こっちは『これで良し』言うのはあるど」

最終的に彼女がこのアルバムで弾いている合は?

「3割くらいやなぁ。7"EPに入れてる曲も録りなおしてオレが弾いたり。あのEPの時はまだ方向性が見えんかったから、今回が実質の1stみたいな気持ちはあるなぁ。今まで見てきた日本のインディーズの、身体に染み付いているのを、一曲一曲出してるし。あとボーナストラックで、オレが15歳の時に(スタジオ)246で録ったのを2曲入れてるし。Oi!ってのが好きでやり出した当時の曲やし、特に思い入れあるし」

—アルバムの出来はどうですか? 満足度とか…。

「満足っていうか、まぁ練って作った訳ではないからなぁ、その時のノリで録ったのばっかりで、ほぼ全部一発録り。まぁ今の俺らの路線、ストレートな感じは出てるという意味で満足はしてるわ」

—最後に隠しTRACKで入ってるのについてですが、これを今あえていれて、若いヤツに聴かせる必要ってあるんかな?とは正直、思ったんですが…。

「まぁ若いヤツに聴かす必要はないわな。作品としてずっと生かす事が出来ずに一所懸命やった時のモンやから、いつかは陽の目を見させたらなっていう思い入れやな、俺と小倉の自己満足やな…」

—同じように、復活後のEP(2000年リリース)の裏ジャケに大御所のみなさん (笑) の写真ががたくさんありますが、あれを載せる必要ってあったんかな ? という疑問がどうしてもあるんですが…。

「あの辺は小森(RISING SUN)が持ってきた写真やな、リュウ君(CRACKER JACKS)とか出路っちゃん(RISING SUN)とか…。最初は俺らの、84年くらいから撮ってた写真を一まとめにしてて。…でも世話になった人たちはSPECIAL THANKS以上に載せたかったからなぁ。まぁ、あれに関しては、これからの活動に向けてって言うよりも、これまで世話になった人たちに対してっていうのが強くて、だからプレス枚数も300枚で」

—なるほど。ところでTHE INDEXが中心になってのオムニバスCDの企画があるそうですが。

「うん、昔、自分で色々な企画とかやったりしてたけど、今、当時とは全く状況が違うから、自分でまた企画したりするのを恐れてた部分が半分はあるねん。でも最近、やりたくなってきたのは、…やっぱり楽しいねん、楽しいのが『勝つ』? 自分らのライブを見て声を掛けてくれると、直で(反応が)返ってくる、言うのが昔から変わらんな、と。今回、オムニバスをやる事に対し、何を伝えるの?って言われると辛いけど、昔から『こういうノリを出したいんや』言うのが常にあって、OUTLAWSにしても『何やこのまとまりのない集まりは?』…けどその中を入ってきたやつも何人かおったし。今はジャンル分けされ過ぎててライブ見に行っても面白くないけど、割とバラエティーに富んだオムニバスになるやろし、その完成度を高くするのはオレなんかなぁって錯覚したりするけど(笑) まぁ大阪のオレらの次の世代のヤツらはここまで行ってんねんぞ！ 言うのを出したいねん、みんな引っ込み事案かなんか知らんけど、出す機会もあると思うねんけど、妙に人見知りしよるなぁ(笑)」

—ハイ (笑) 確かに。

「でもそんなん気にしてられへんしなぁ。今まで、まだ数はまだまだやけど、復活してからライブやった時に知り合った連中に声掛けて、みんなドンドンええ風に行って欲しいし、それで作品さえ良いのに仕上がったらエエし。それが第二弾に繋がったら大阪のPUNKシー

ンはもっと広がるし。とりあえず今、参加バンドでほぼ決まってるのは、★HISATAKA★, キャラクター, DIRTY IS GOD, 沈黙爆撃機, DOLORES, AUTOMATIC ORANGE…。まだ、あと5バンドくらいは入れられるなぁ」

—ところで'91年から再結成までの間、音楽活動と云うのは…?

「オレはHAYATOの弟とやってたり…その後は全く音楽聞かなかったりしてたけど…。で、清水も最初は男やと思ってたんやけど、電話で話したら女やったから一回断ったけど、スタジオで合わせたらエエ感じやし。小倉とわっちゃんはずっと(音楽活動は)ずっと継続してたなぁ、ジョータロー君(現・鉄アレイ)とバンドやったり。…14〜15歳からPUNKがずっと好きで、ライブ観に行き出したり、バンド組んでやるようになったり…嫌いになろうとした事もあったけど、もうこればっかりは身体に染み付いて離れへんな！熱くもなれるし。例えばオレかて自分よりも前の世代のPUNKの人らの昔の話聞いとったらポカーンと口開くもんなぁ、羨ましいし、楽しそうな話いっぱい出てくるし」

—そういえば、ドイツ製の『Oi OF JAPAN 2』(笑)とか言う海賊盤ブートに入ってましたね…。海外でも、マニアの間ではあるんですけど、知名度はありますよね。

「…やっぱりそういう話を聞いとったら、くるモノがあるわなぁ。KING　KONGとかTIME BOMB行って、昔の1stとか2ndソノシートや友だちのバンドのが置いてるのを見たりしたら、一体何年前やねん！と。『ああ年とってもうた…』思うけど、これが50とか60歳になった時に残そうと思ったら、今やらな！と思うし。絵にしろ音楽にしろ、人間それぞれの何かを残して死にたいと思う。で、オレが自分で満足出来るのは、やっぱりPUNKのバンドをやる事やなぁ。他の色んなジャンルに比べても、PUNK云うのは誇れるわなぁ」

—はい…。

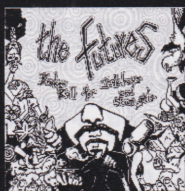
「上の人…原爆オナニーズにしろGAUZEにしろ、俺から見ても手本になる人らがおるからこうやってまたやり始める部分はあるし。遠藤みちろうとか町田町蔵とか…熱いモノがあるわな、煽られる何かが…PUNKも捨てたモノやないなと。今から取り返すのはなかなか難しいけど、PUNKが好きやねんで！言うのをアピール出来る事はして行きたい。昔、同じように止めたヤツ『アイツらようやりよんのぉ』…ほなやってから言えや、と。今、やってるヤツでも『何やねん、今ごろ』言われても、逆にオレらの世代がなかったらお前ら無いんやぞ、て言えるし」

—最後に、今後THE　INDEXが進むべき道について何か。

「マイペースで…まぁそのスピードにもよるけど、俺の中では毎回のライブで何かをつかみたいなと。昔、GARLIC　BOYSと一緒に岡山行った時、客4人の時あって。でもそいつら盛り上がりよって、それでライブに対する考え方を変えさせられた事があったなぁ」

DISK 紹介

THE INDEX “KUMONO SHITADE”
7"EP(レーベル名なし)

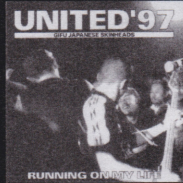
かつて'80年代後期の大阪のBEAT系シーンで暴れまくり、全国的に知名度も誇っていたTHE INDEXの復活第一弾リリース作。おそらくドイツで作られたであろう『Oi OF JAPAN 2』(笑)などというコンピにも参加(!?)していた事からも判るように、海外においても評価を得ていた。オリジナルメンバーのキューピー、小倉に加えて、DrumはexTHE CANDYSの渡辺、そして女性ギタリストの清水の4人。ややエモがかった骨太のPUNK ROCKで、歌詞は全て日本語。限定300枚です、お早めに。ALL MANには多分まだあるでしょう。

THE FUTURES “BROKEN ROLL FOR JUNK BOYS AND SCUM GIRLS”
7"EP(JERK OFF)

昨年4月のベアーズでのライブで、VoのYOJIがモニターに額を強打し血まみれになったのに、50人弱の客の全員(ホンマに全員!)が笑っていて、誰も心配してくれなかった(笑)THE FUTURES。大阪で人気・実力共に急上昇中の彼らの2ndは、持ち前のアヴァンギャルドなHARDCOREサウンドにますます磨きがかかりながらも、PUNKファンならストレートに楽しめる仕上がり。独自の世界観を展開する日本詩も興味深い。

沈黙爆撃機 “無用の用”
7"EP(弾丸音盤)

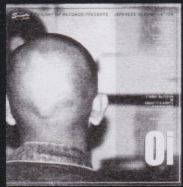
1990年からマイペースで活動している大阪の沈黙爆撃機の初のリリース作品。最近のライブでは、かなり80'S USハードコアに傾倒した音を聴かせてくれるが、レコードの仕上がりは割とストレートで、聴きやすい。歌詞は全て日本語で歌われている。レコードを聴いてBearsへ足を運ぼう。500枚限定。ちなみに初期の頃の彼等は寝屋川のVINTAGEを拠点にしてました。

REAL SHIT “s/t”
7"EP(MICKEY ROOM RECORDS)

横浜を中心に活動する'80'S USハードコア系バンド・リアルシットの7"EP。最初から最後まで、ユニークな日本語詞で書かれている爽快なFASTチューンを連打しまくる。好き嫌いが分かれそうな、クセのある声質のVocalがポイント。スキャンダラスさはあまり感じられないが、逆にこれがバンドの持ち味なのでしょう。RAZORS EDGEやTOTAL FURYなどが好きな方には絶対にお薦め。

UNITED '97 “RUNNING ON MY WAY”
CD(MCR COMPANY)

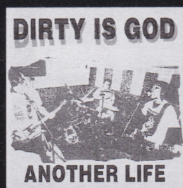
2000年春に惜しまれつつ解散した、岐阜の若きOi!/SKIN系バンド・UNITED '97が最期に残したフルアルバム。いわゆるJAPANESE Oi!サウンドを予想していたが、いざ聴いてみると、骨太な『男のROCK』っぽい音のバランスで、BOOT BOY MUSICと呼ぶに相応しい内容に仕上がっている。うーん、やはり解散は惜しまれる!

ANARCHY CONDOMS/RAW RIDE split
7"EP(浜っ子レコード)

横浜を中心に活動するハードコアBAND・RAW RIDEとANARCHY CONDOMSのSPLIT EP。両バンドともにメリハリのある、ドライブ感溢れるハードコアチューンを聴かせてくれる。RAW RIDEはリード楽器のように鳴るdrumが印象的。ANARCHY CONDOMSはADKレコードに代表される80年代的なヒリヒリする日本語詞PUNKに、80'S US ハードコアの疾走感を加えたかサウンドが絶妙にマッチしている。

V/A-Oi! THE UNITED NATION
2CD(Straight Up)

日本各地のOi!/SKIN系の32バンドが集まったオムニバス。これだけの数が集まると、PUNKファンなら必ず琴線に触れるバンドが見つかるはず。私的にはANGER FLARES, DUST BOX, 陽, ROTHMANS, STRONG BLOOSOM, アルマジロバンド, 4B-UNIONがそそられた。そんな中でも、東京の古株・GROWL STRIKEが珠玉の出来栄え。ただし、新人バンドが多いためか、ライブの良さを音源に活かし切れていないバンドもいるので、少しでも興味が湧いたらライブへGO!

ANGER FLARES “BEGIN TO WALK”
CD(EBISU RECORDS)

神戸を中心に精力的に活動するOi!/SKINHEADSバンド・ANGER FLARESの7曲入CD。'80年代の関西から受け継がれる、正統派JAPANESE Oi! soundは、ストロングなOi!を聴かせる彼らの出現を以ってトドメを刺されたと言っても良いはず。歌詞は全て英語です。2曲目の『Oi will never die』が一番良かった! 次作にも期待したいです。

DIRTY IS GOD “KANOTHER LIFE”
7"EP(LABORATORY)

大阪の三人組・DIRTY IS GODの4曲入りEP。Bassist・高柳加入後初の作品のであり、80'S USハードコアのメロデックな部分を上手く消化した、今のカラーが良く表れている。ライブでは、特にDrum&Vocalのテンションの高さには圧倒される。このレコードの収録曲の歌詞は全て日本語です。曲にちゃんとメロディーがあって、歌として成り立っているので、もっと幅広い層に支持されるべきではないだろうか?

THE FUTURES/DIOS HASTIO split
7"EP(ANSWER)

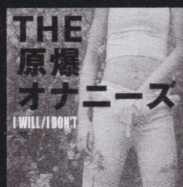
PUNK/HARDCORE系の良質なリリースで知られる名古屋のレコード店・ANSWERのレーベルからの一枚。大阪のTHE FUTURESは、これまでの音源に比べて、よりクリアでかつ迫力のあるサウンド。ややROCKっぽい感触の『Trance Again』が印象的だ。ペルーのバンド・DIOS HASTIOは、南米ならではの「ギャオオオオー」な怒濤のRAGING HARDCOREを聴かせる。日本のハードコアの影響を感じたのは私だけでしょうか?

NO SIDE “COMP 95-98 ep”
7"EP(ACME)

大阪の80'S USハードコア系バンド・NO SIDEの、これまで参加したV/Aの音源を集めたレコード。CDよりも、やや粗い音質で、ビニールならではの雰囲気が味わえる。2000年に、共にJAPAN tourを行なったUSのハードコアバンド・OUT COLDの関係のレーベルからのリリースです。

VocalのTANYが脱退し、新たにexBRICK BUTT, ex-NAIL CRIPPERSのKIDを迎え、現在活動中だそうだ。

RADIO FRANKENSTEINS “RUBBER BLOOD”
CD(BLUE STONE RECORDS)

姫路の三人組PSYCHOBILLY BAND・レディオフランケンシュタインズの1st CD。スピード感のあるサイコビリーサウンド全12曲。1曲目の『悪友 BAT MEN』から4曲目の『I LOVE YOU』までの流れは、深夜のドライブにもって来い!ROCKABILLYが本来持っていたイヤらしいカッコ良さも十二分に感じさせてくれる彼ら、客と一緒に楽しもうと言う姿勢が強く感じられるライブパフォーマンスは必見!

THE原爆オナニーズ “I WILL/I DON'T”
7"EP×2(TRIPPIN' ELEPHANT)

名古屋のベテランPUNK GODの全4曲入の最新作。いつの時代も。常に新鮮さを感じさせてくれる彼らの今回の作品も、ささくれ立ったスリリングさと安心して聴けるノリの良さとが入り混じった傑作。私、これまでの作品の中でも一番好きです!CDも同時リリースされている模様。活発なライブにおいても、常に若いバンドと共演する前向きさに敬意を表したいです。

編集後記

この“SHOT & SHOUT zine”のissue 1を発売したのが1999年の秋でした。

その時と全く同じ、お詫びの言葉を書かねばなりません。DOLL誌(確か三月ほど前の号)の告知を見て、通販を申し込まれた方、本当に申し訳ございませんでした。

現在、8月22日の夕方です。25日に岡山でCRIKEY CREWのCD発売記念ライブがあるため、それに間に合わせるため、寝てません…と言うか、前もってこつこつと準備していたらこんなに苦労はしないのですね…。

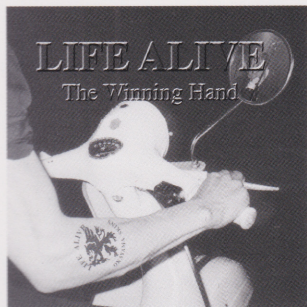
前回は完全に手作業でしたが、今回は、Macを使って(エッヘン)製作しました。

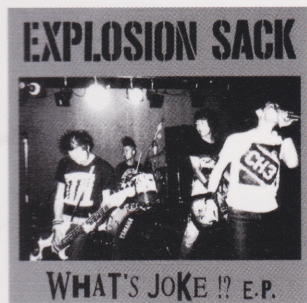
前回より、価格が少し安く出来、内容的にも自信を持ってお送り出来るモノに仕上がったと思っております。

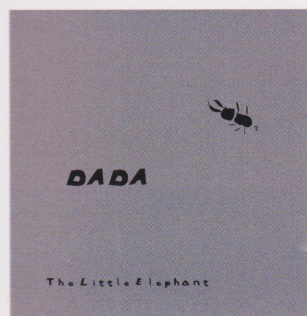
皆様の御感想をメールその他にてお寄せ頂きたく思います。

さて、このFANZINEのWEB版“SHOT & SHOUTweb zine”がございます。これまであまり更新出来ておりませんでしたが、9月中にはリニューアル致しますので、今しばらくお待ち下さいませ。

URL: http://www.h2.dion.ne.jp/~sszine/
mail: bronze-f@f3.dion.ne.jp

NOW ON SALE !!!!! for the new century

LIFE ALIVE
"THE WINNING HAND" 7"
(BRONZE FIST, BFR-009) 税込 ¥1050

岡山を中心に活動するSKINHEADSバンド・ライフアライヴ。'99年春のスキンズVA『ライトニングサンダーボルト』に続く、初の単独リリース作。'80'S末期の欧州のNationalist系バンドを彷彿させる重厚なキャラクターで、見る者を圧倒する。限定1000枚プレスで、２曲入。

EXPLOSION SACK
"WHAT'S JOKE !? E.P." 7"EP
(SHOT&SHOUT, S&S-004) 税込 ¥1050

大阪PUNKシーンにて精力的に活動中の彼らのここまでの活動の集大成的な５曲入EP。ストレートなPUNKサウンドでありながら、国内外の'80'S PUNKのマニアックなテイストを感じさせるそのサウンドは、分かるヤツには分かる独特な感触を持つ。歌詞カード付で限定600枚プレス。

THE LITTLE ELEPHANT
"DA DA" 7"
(KAKAO, KKO-001) 税込 ¥1050

山口県岩国で活動する10人編成のオーセンティックSKAバンド・リトルエレファントの２曲入1st 7"。SKINHEADSバンド・ストロングクラウドと共に地元シーンの中心的な存在である。BRONZE FIST傘下の新レーベル・KAKAOからの第一弾リリース。

GRUESOME CRIKEY CREW
DON'T SCREW UP YOUR EYES ! 7" ¥840
(BRONZE FIST, BFR-002)

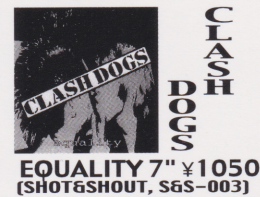
CLASH DOGS
BITE THE SYSTEM 7"EP ¥945
(BRONZE FIST, BFR-003)

DICK SPIKIE
1994 7"EP ¥945
(BRONZE FIST, BFR-004)

THE BLAST
NOW&HERE 7" ¥1050
(SHOT&SHOUT, S&S-001)

D-FORCE RADICAL UP
LAKE SIDE PUNKS 7"EP ¥1050
(SHOT&SHOUT, S&S-002)

FINAL YOUTH
BLADE&ARMOR 7" ¥840
(BRONZE FIST, BFR-007)

STRONG CROWD
FIGHT FOR TOMORROW 7" ¥840
(BRONZE FIST, BFR-008)

CLASH DOGS
EQUALITY 7" ¥1050
(SHOT&SHOUT, S&S-003)

全国のインディーズ盤取り扱い店にてお買い求め頂けますが、通信販売も可能です。送料や送金方法などの詳しい内容は、下記までお問い合わせ下さい。通信販売のみの特典も御用意しております。

〒560-0003 大阪府豊中市東豊中町5-2-104-203 BRONZE FIST RECORDS (mail: bronze-f@f3.dion.ne.jp)

SHOT & SHOUT

6 tracks CD

"LOVE, RESISTANCE…"

30 September 2001 ON SALE ! !

SHOT & SHOUT

7"EP(５曲入)も別レーベルよりリリースします。